

今月のテーマ 『疾病予防と治療月間』

第1457回例会

2016年12月15日 Vol.31/No.21

■本日の例会 / 第1458回 平成28年12月22日(木)

- 会長・幹事報告
 - 各委員会報告……各委員長
 - 例会終了後 年末家族懇親会 夜間例会
- 宮崎観光ホテル はな花 18:30～

【出席率状況報告】

- ・会員数 ……………54名
- ・出席者 ……………43名
- ・欠席者 ……………11名
- ・出席率 ……………79.63%
- ・12/1の修正出席率…70.37%

■会長挨拶



会長 香川美穂子

こんにちは。12月も半ばとなり、いよいよ今年も残り少なくなってまいりました。私の会長としての任期も半分まで来た事になります。何もわからず年間スケジュールに追われる様に日程をこなし、落ち着いて取り組んだのは結局「ヒムカかるた」のみと言う気が今しております。先週も申し上げましたが、このかるたは宮崎の子供達にとってはとても大事な教育です。せっかく沢山作ったのですから「早く子供達の所へ持っていかねば」と思い、南は日南から北は若山牧水の東郷町や先日大変な水害にあった北川まで動いて見ました。宮崎県は大きいしどこも良い所ですね。あらためて宮崎県を知る機会となり、とても良かったです。あと出来れば明日高千穂・五ヶ瀬まで回りたと思っています。お届けした場所は小学校だったり教育委員会だったりですが、ほとんどの所は「かるた」の存在をご存じない様でした。又良い機会と思い延岡ロータリークラブと延岡東ロータリークラブにお邪魔し、かるたを紹介させて頂きました。どちらのクラブでも早速買い入れてくださる会員が居てとても嬉しく思いましたし、秦さんのお名前や平松さんのお名前をおっしゃる方がおられ「それでこそロータリー」と言う感じでした。女性会員とも初めてご挨拶ができ、今後の「なでしこ」の活動にもきっと良い協力体制ができるのではと思いました。

ロータリーの原点は「信頼できる人々との交わり」だと思います。今回私は「ヒムカかるた」と言うとても良い教材によって、本当なら会う事なかった子供達と楽しい会話をする事ができましたし、多くの新しい方々とお目にかかりロータリークラブの活動の一端をご紹介すると共に新たな交流のチャンス頂きました。とても有難いと

思っております。糸数会員や江藤幹事も動いて下さり確か800と聞いておりました在庫のかるたも多分200ほど減ったのではないかと思います。それでもまだ5～600残って居るのでしょうか？このかるた作成にいくらかかったのか知りませんが、出来る事なら紙が傷まないうちに子供達の元へ届け、且つ会員のお金の補填をすべきと思いますが、私としては一旦この年末でかるた紹介活動は終了とし、買い取りましたかるたの売上金のうちの1箱につき200円を独断ですが故郷熊本県のお城の復旧費用として来年早々に熊本県庁に届けるつもりでおります。

そして来年は、先日行いましたアンケートの集計をし、今後のクラブ運営の指針にしたいと思っております。回収が大変遅くなりましたが、お手元にお持ちの方は今日及び来週の夜間例会にご面倒ですがお持ち頂きたいと思っております。以上どうぞよろしくお願い致します。

と、ここで追加のご報告。実はこの原稿は火曜日に書きました。そしてその夜、中部分区9クラブの会長幹事会が行われたので「ヒムカかるた」をご紹介しましたところ、なんとなんと各クラブが賛同して買い取りをお約束下さり本当に涙が出そうでした。「これでこそロータリー」と嬉しかったです。奥野さんに対応はお願いしますが、多分100箱位一気に捌けるのでは？と思っています。もし皆さん他のクラブの方にお会いになりましたら、どうぞお礼を申し上げて置いてください。私、ロータリーが好きになりました。

■幹事報告

幹事 江藤敏治



幹事報告です。IMが来年2月11日ニューウェルシティ宮崎にて開催されます。全員参加を目指して予定を開けていてください。

現在、ノロウイルス感染症が猛威を振るっています。嘔吐物にはアルコール消毒は効きません。ハイターキャップ1杯を1リットルの水で薄めて消毒薬としてご利用ください。

会員卓話

坂本弘史 会員



石井十次とその生涯について

石井十次は1865年4月11日宮崎県高鍋町に生まれた。我が国児童福祉の先駆者であり、食べさせる事だけではなく、労働を通じて教育することが大切であるとの信念のもと、実に3,000人を超す孤児救済に生涯をささげた人です。

会員卓話

糸数智美 会員



十人十色の子どもたち～最近の子育てに思うこと～

1) 気になる子どもたち

近頃、「かんしゃくを起こしやすい、感覚が過敏、体の使い方・指先が不器用、物事の要旨がつかめない、言葉で表現するのが苦手、コミュニケーションが取れない…」などの軽度発達障害と呼ばれる子どもたちが増えています。これらの子どもたちは、病気ではなく「脳の働き方に特徴がある」「違う脳を持つ」と言われています。発達障害は発達の仕方に凸凹がある子どもたちとも言えるのです。今日は、このような子どもたちの特性を理解していただきたいと思い、日頃の診療や子育て講座でお話している内容をご紹介したいと思います。

2) 多数派・少数派

この世の中は、多数決の世の中です。10人中9人が「そうだ」と言うことが「普通」で、異なる言動をとる1人は「変わっている」と言われます。多数派が「正常」「常識的」少数派が「異常」「非常識」とも言われます。しかし、言い方を換えれば、多数派は「凡人」で少数派は「ユニーク・個性的」と言えます。

世の人たちは、「自分は多数派でありたい」「子どもは多数派であってほしい」と思いがちです。自分の子どもが多数派にいると感じた場合は、何も心配しませんが、みんなと違う言動をとるととても気になり「多数派」のやり方を押し付け、「多数派」に入れよう入れようとしてします。いつも叱ら

れ、多数派のやり方を押し付けられる少数派の子どもたちは、自分らしさを奪われ、自尊心を傷つけられ、やがては自信を無くし引きこもりになるか、親や周囲の大人や社会を恨み、反抗的になるという二次障害をおこすこととなります。大事なことは、「違う」ということを認めてあげること。「違う」ということは「劣っている」ことでも「悪いこと」でもないからです。「ちょっと気になる子」「困った子」「育てにくい子」はまず周りの理解が必要です。子ども1人1人の特性を理解し、ありのままの姿を受け入れて余分な干渉せず、育ちを見守る姿勢が大切なのです。

「どうしてできないの!？」ではなく「どうやったらできるかな!？」と考え方を置き換えてみましょう。「教えて、ほめる」が基本です。できない事は、できるようにできるようにもって行って、そしてほめてあげることが大切です。

以前、「広汎性発達障害」と言われていたことも今は「自閉症スペクトラム」と言われるようになりました。「スペクトラム」とは、「連続体」というもので、虹を思い浮かべて下さい。虹は7色と言っていますが、本当にそうでしょうか? 7色のそれぞれの色の境目には線はありませんし、7色の濃さを考えると無数の色があるわけです。知的が遅れのあり障害の程度の強い濃いタイプから、知的な遅れはないけれどもこだわりの強さ、コミュニケーションの苦手さ、社会性の乏しさなどの苦手さを持った薄いタイプまで様々です。子どもは、変化します。それぞれの子どもを周囲の大人が理解し適切な対応を続けていると、徐々に裾野に降りて来て、困り感が減ることもあり得るのです。

3) メディアと子どもたち

日本の子どものメディア接触時間は世界一長いと言われています。生後6か月か1歳までのメディア接触時間は35%、1歳以上では64%といわゆる「電子ベビーシッター」状態となっております。4か月児の母親の60%が授乳中に視聴、1日中テレビをつけっぱなしの母親の90%が授乳中視聴。授乳しながらテレビ・ビデオを視聴している母親は70%以上とされています。これらの現状を踏まえて、日本小児科医会は、「2歳までのテレビの視聴はさげましょう」「授乳中・食事中の視聴は避けましょう」「すべてのメ

発行/宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
会長/香川美穂子 副会長/三輪修珍・田中 寿 幹事/江藤敬治